

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：33936

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2019

課題番号：18K17625

研究課題名（和文）在宅要介護高齢者にグリセリン浣腸と摘便を安全に実施するための看護実践モデルの構築

研究課題名（英文）Development of a nursing practice model for safely glycerin enema and digital extraction of feces for elderly people who require at-home nursing care

研究代表者

栗田 愛 (Kurita, Ai)

人間環境大学・看護学部・講師

研究者番号：50759149

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、在宅で療養する高齢者に看護師が安全にグリセリン浣腸（以下、GE）と摘便を実施する際のアセスメントと実践の見本となるモデルを構築することである。研究は3段階で行い、まず訪問看護師の排便に関する事例を集積した。集積したデータはGEによる有害事象を回避する視点で整理し、モデル案を作成した。次に、文献検討によってモデル案の検討をした。また、解剖学者、訪問看護師に安全性の検討を依頼し、モデル案を修正した。修正したモデルを在宅要介護高齢者に実施し、モデルの評価と修正をした。そして、在宅で看護師が活用することを考え、医師にモデルの安全性を確認し、見本となるモデルを完成させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

グリセリン浣腸（以下、GE）は、カテーテルなどによる直腸粘膜の損傷や、損傷部から血管内にGE液が移行し、赤血球が破壊される溶血が問題となっている。この問題は、GEと摘便の併用が危険性を高めると指摘されており、GEや摘便の実施頻度は在宅で多い。本研究で作成したモデルは、在宅において自力で排便できない高齢者に対して、看護師が身体診察によりGEや摘便の必要性を判断するための見本である。そして、GEや摘便を実施する際には、安全に行う見本ともなる。このモデルにより、在宅で療養する高齢者の排便に伴う負担が減り、安全な排便の一助となると考える。また看護師の判断力と看護技術の水準の向上にも貢献すると考える。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to structure a model for the assessment and implementation of safe glycerin enemas (hereinafter, GE) and stool extraction by nurses among elderly individuals who are recuperating at home. The study consists of three parts: 1. First we compiled cases by home-visiting nurses regarding defecation. The compiled data was organized from the perspective of avoiding adverse events by GE and a model design was created; 2. Next, the model design was reviewed by examining documents. Furthermore, an anatomist and a home visiting nurse were asked to examine the model design, after which we made revisions thereto; and 3. We implemented the revised model among elderly individuals requiring long term care at home, then again evaluated and revised the model. Taking into consideration the fact that nurses will utilize it at home, we confirmed the safety of the model with a doctor and completed the exemplary model.

研究分野：基礎看護学

キーワード：グリセリン浣腸 摘便 看護技術 便秘 フィジカルアセスメント 在宅要介護高齢者 訪問看護

## 1. 研究開始当初の背景

グリセリン浣腸 (glycerin enema : 以下、GE) はカテーテルによる直腸穿孔、損傷部位から GE 液が血液内に移行して起こる溶血、腎機能障害の危険性がある。よって用手的に便を出す摘便は粘膜を損傷する危険があるため GE と併用しないのが望ましく、GE や摘便の実施自体も侵襲や苦痛を伴うため不必要な実施は避けるべきである。しかし、高齢者は排便機能の低下に伴い便秘となりやすいため訪問時に適切な排便を促進する技術により排便する必要があり、さらに在宅では便を出し切り介護負担を軽減するために GE と摘便が併用されている現状もある。このように在宅では介護負担や居宅の状況など複合的な状況判断をしながら有害事象を起こさず安全な技術を実践することが求められるが、そもそも GE と摘便がどのような対象に必要なものか、また摘便が必要な場合はどのように組み合わせて実施したらよいかは明らかではなく、看護師各々の経験に基づき排便を促進する実践がされている。そこで、GE の有害事象を回避した上で、GE と摘便の需要が高い在宅要介護高齢者の GE と摘便の必要性を判断し、実施方法を示すモデルが必要であると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、GE や摘便の需要が高い在宅要介護高齢者に対して、排便を促進する実践の中でも特に侵襲が大きい GE や摘便の必要性をアセスメントし、安全に実施する方法を示す看護実践モデルを構築することである。

## 3. 研究の方法

本研究は、以下の 1~5 を行った。

- 1) 訪問看護師が行う排便に関する実践について居宅への同行調査
- 2) 看護実践モデル案作成と文献検討による修正
- 3) 訪問看護師、解剖学者による看護実践モデル案の評価と修正
- 4) 看護実践モデル導入前後の評価
- 5) 医師による看護実践モデルの安全性の評価

## 4. 研究成果

看護師 7 名の 19 事例から、GE や摘便の実施を判断する項目として、腹部や直腸に関するフィジカルアセスメント、食事量、循環動態、1 週間の訪問回数、訪問終了後のおむつ交換の可否などが必要な項目として得られた。これをもとに、GE の有害事象を回避する視点でデータを整理し、看護実践モデル (以下、モデル) 案を作成した。作成したモデル案に文献検討により修正を加え、訪問看護師、解剖学者に安全性や使用面での検討を依頼し、さらにモデル案を修正した。訪問看護師 10 名により、利用者各 1 名 (計 10 名) に対してモデルを導入し、安全性に問題なく排便を促進する技術の実践が行われた。さらに、モデルと実際の事例の比較により、各アセスメント項目が妥当であり、アセスメント項目間や実践の順序に整合性があることが確認できた。さらに今後、幅広く現場で用いることができるよう、医師にモデルが安全性であると評価を得て、モデルの完成に至った。GE の有害事象の回避を踏まえた上で、効率良く排便を促進するためのアセスメントや、アセスメントの結果どのような実践を行ったら良いかを示す看護実践モデルが完成した。このモデルにより、看護師が身体への負担が大きい GE や摘便を実施する際の基準が明確となり、不必要な GE や摘便を実施すること無く排便に至れることや、GE を実施する際には有害事象を回避する一助となると考えられた。また、アセスメントを図式化し、共有できる形

にすることで、訪問看護師のアセスメント能力の向上の一助にもなるとなると考えられた。

今回のモデルの評価では、対象となった事例が10事例とデータ数が少なく、多くの事例との整合性が得られたとは言えないため、対象者数を増やしてモデルを評価し、多くの利用者の状況に合ったモデルになるよう検討する必要がある。今後は、本看護実践モデルの検証データを増やし、さらに研修会や勉強会への参加が難しい状況にある訪問看護師に普及をするための研究に取り組むことが課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 栗田愛、武田利明
2. 発表標題 看護師が実施するグリセリン浣腸と排便の併用に関する実態調査
3. 学会等名 第20回日本看護医療学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗田愛
2. 発表標題 シンポジウム「多様な排泄ケアの根拠を探る」 グリセリン浣腸の安全な実施に向けて
3. 学会等名 第 18 回地域包括ケア・フォーラム in 青森（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 栗田愛、伊藤千晴、篠崎恵美子、藤井徹也、武田利明
2. 発表標題 日本のグリセリン浣腸の研究の動向と安全な実施に向けた今後の課題
3. 学会等名 日本看護研究学会第46回学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>研究成果を用いた普及活動（学術集会での交流セッション）</p> <p>1. 栗田愛、吉田みつ子、大久保暢子、香春知永、道畑恵利、武田利明（2019）、安全なグリセリン浣腸の実施に至るまでの思考プロセスについて考える、第18回日本看護技術学会学術集会</p> <p>2. 栗田愛、吉田みつ子、大久保暢子、武田利明、香春知永（2018）、グリセリン浣腸の安全な実施に向けた検討と普及について考える、第17回日本看護技術学会学術集会</p> <p>研究成果を用いた普及活動（研修会）</p> <p>1. 菱沼典子、縄秀志、塚越みどり、加藤京里、加藤木真史、武田利明、吉田みつ子、大久保暢子、栗田愛（2020）、日本看護技術学会主催全国キャラバン研修会「ジェネラルナースの技術力を高めよう - エビデンスに基づく排泄援助の技 - 」</p> <p>2. 栗田愛、武田利明（2019）、安全なグリセリン浣腸について考える、岩手県立大学看護実践研究センター事業「看護技術スキルアップ Learning Strategies」</p> <p>3. 栗田愛、武田利明（2018）、安全なグリセリン浣腸について考える、岩手県立大学看護実践研究センター事業「看護技術スキルアップ Learning Strategies」</p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	武田 利明  (Takeda Toshiaki)	岩手県立大学・看護学部・教授	
研究協力者	吉田 みつ子  (Yoshida Mitsuko)	日本赤十字看護大学・看護学部・教授	
研究協力者	桑本（大久保） 暢子  (Kuwamoto Nobuko)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授	
研究協力者	香春 知永  (Kaharu Chie)	武蔵野大学・看護学部・教授	
研究協力者	道畑 恵利  (Michihata Eri)	ピアラボ訪問看護ステーション	